SCI-Tech Festival 2024

政策推進における政策主体と住民の「あいだ」の担い手に関する研究

徳島大学・大学院創成科学研究科・創成科学専攻・社会基盤システムプログラム・田口太郎研究室
博士後期課程3年　氏名　松本　卓也

1　研究背景と目的

本研究は、人口減少、過疎化の影響を大きく受ける中山間地域における環境政策の推進において、行政と住民、ふたつの「あいだ」を繋ぐ中間的グループが果たした成果と課題を明らかに関するものである。

2　ゼロ・ウェイスト（ZW）推進員

ZW推進委員は、廃棄物処理に関する住民からの相談や施策の普及活動などの役割を上勝町役場から任命された7名の住民で構成される（調査時2022年10月時点）。限定的な任務の委託先として作られたが、2020年のZW宣言の見直し時になどは、ZW政策を積極的に推進する行政や民間セクターと、政策への関心が低い地域住民との「あいだ」の担い手としての役割を果たした。

3　研究結果

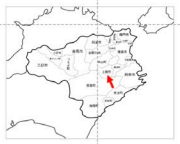
7人の構成員のZW活動に対する専門性や視座の違いが、「あいだ」の担い手として効果的に機能したこと要因であることが明らかとなった。

徳島県上勝町

〈位　置〉　四国　徳島県勝浦郡
徳島市中心部より車で約１時間程度に位置する

〈人　口〉　1,380人（高齢化率55.9%）
638世帯

〈総面積〉　109.68㎢
88.3%が山林、
内約80%が杉等の人工林
平地は1.8%



人口データは2020年国勢調査、その他データは上勝町HPより

上勝町旭地区の風景（筆者撮影）

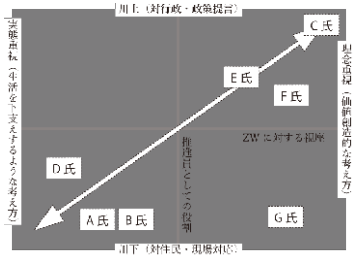
上勝町ゼロ・ウェイスト政策の変遷

・法規制化、小型焼却炉の閉鎖→国内自治体初の「ゼロ・ウェイスト宣言」（2003年）
・「焼却・埋め立て処分をできる限り0に近づける」など、3つの重点分野を掲げて2020年を目標に活動
・リサイクル率80%以上を達成、国内外での注目を集める「循環型地域社会」の先進事例に

ゼロ・ウェイスト政策の変遷と主な出来事（「くるくるVOL.112)」を参考に筆者作成）

推進員それぞれのZWへの想いや自身の考えに関する発言例

A氏	ゼロ・ウェイストを通じて住民にとって住みやすい街にしたい
B氏	ゼロウェイストをもっと進めようというよりは、高齢者など困っている人や不幸になる人を減らしたい思いが強い
C氏	役場の下で働いているため、役場のサポートという思いもある
D氏	基本は町民の幸せを優先的に考える。負担を減らせるのなら減らしたい
E氏	これまでアカデミーでやってきた経験を生かして、自身で担えることは担っていきたいという思いと、役場のパイプとして活動できることにモチベーションがある
F氏	ゼロウェイストという上勝のブランドが続くために、伝統的な考えや文化を守りたい
G氏	店長としての自分と、町民としての自分がある。民間企業と行政が理解し合えるように繋げる役割が重要



多種なZW推進員の立ち位置の全体像
実践面に関しては長期間調査から、役割に関しては上アリングでの発言内容を基に作成

分野：政治学およびその関連分野　専門：地域研究関連
E-mail: tmatsumoto@tokushima-u.ac.jp